『國民新報』1940年5月19日

[主張]　旅の美しさ醜さ[[1]](#footnote-1)

　をればこれです。、一これです。吾は[[2]](#footnote-2)すべてのは これのといふべきでせう。るにくのはのはきてといふでをしてゐますね。なんとさもしい、あさましいけでせう。

　やでにのシーズンです。たちの、、祭のハイキングやれのピクニック、またはのといつたやうに、にののいおのやうなものです。もをいてのではあるが……。

　はであると に健のためにもなります。しかし、はであることもれてはなりませぬ。やのしさをはふのがであるとすれば、やののありがたさ、けをずるに、があるです。やはであるとに です。です。吾はしきや にみるに のにる ないおそれおほいになることをれますまい。

　かゝるしさがしめるのは のみであることをれますまい。ににとをへたまふの みをれますまい。そしてよくをひ にへまつりつゝ、てののをした やのをれますまい。これだけのことは 一、行れてはならぬことでは ありますが、しかしや勞のしさ[で] 々れがちになるのは しいことであつても、むをないことであります。しかし のはそれとつて、すべてのの はしさかられて、のんびり、ゆつたりした でゐられるのですから、かゝるにこそ 吾はいかなで、しんみりと、ややや のをじはひ、するなが るのです。そしてにも、をもつて をして、これらのにするい をゑけることがるのです。

　の一一もしませう。にしませう。のらぬやうをみませう。のなどにして、からるのびをねないやうにけませう。いやでにたのをるやうな ことはしますまい。に、おにびをへふやうにをひませう。できふに、の一や一をしませう。の、のにものをすことは なんとしいことでせう。

　やでは にととそのものにならうではありませぬか。にいては、のをばがにじたなおさまとひませう。そしてのをひ、とのをもつてこれに しませう。にいても に[、]にしてはのこと、そこのたちにも のをもつてし、これをいたはりませう。

　かういふけで、一つのをへたら[、]のびはにきく、のは一とまつたことでせう。

1. この文章は一部「わかちがき」がなされている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 「吾等は」は単行本『同胞に寄す』では削除されている。 [↑](#footnote-ref-2)